



## 平成24年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成24年2月9日

上場会社名 株式会社 AOKIホールディングス  
 コード番号 8214 URL <http://www.aoki-hd.co.jp/>

上場取引所 東大

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 青木 彰宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長

(氏名) 田村 春生

TEL 045-941-1388

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	104,082	7.3	7,799	9.5	8,500	6.4	4,199	23.8
23年3月期第3四半期	97,033	0.9	7,120	31.0	7,985	29.9	3,393	15.2

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 4,033百万円 (25.7%) 23年3月期第3四半期 3,208百万円 ( % )

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
24年3月期第3四半期	98.58	
23年3月期第3四半期	79.52	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	169,586	101,390	59.5
23年3月期	166,081	99,435	59.5

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 100,983百万円 23年3月期 98,779百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
23年3月期		15.00		15.00	30.00
24年3月期		15.00			
24年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	141,900	7.0	12,100	10.5	13,000	7.8	5,500	53.8	129.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	46,624,752 株	23年3月期	49,124,752 株
期末自己株式数	24年3月期3Q	4,430,267 株	23年3月期	6,453,431 株
期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	42,598,110 株	23年3月期3Q	42,672,378 株

#### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提等については、添付資料3ページ<sup>1)</sup>(3)連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) セグメント情報 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(6) 重要な後発事象 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興需要などから緩やかな回復傾向で推移するものの、欧州における債務問題による世界的な景気減速懸念や円高の長期化などにより、先行きは不透明な状況が継続しております。

当業界におきましては、春から夏場の節電に対応したクールビズや避暑需要等により、また秋以降は天候の影響やファッション事業のリクルートマーケットの遅れはあったものの、全体としては概ね堅調に推移いたしました。

このような先行き不透明な環境のなかで、当社グループは各事業において以下のような諸施策を実施した結果、売上高は1,040億82百万円(前年同期比7.3%増)、営業利益は77億99百万円(前年同期比9.5%増)、経常利益は85億円(前年同期比6.4%増)、四半期純利益は41億99百万円(前年同期比23.8%増)と増収増益になりました。

#### (ファッション事業)

AOKIでは、お客様のニーズに対応し、商品・販促面では20代から30代のお客様からご好評いただいている亀梨和也さんをキャラクターに起用した「3Dスリム」の展開に加え、30代から40代のお客様をターゲットとし、東山紀之さんを新たにキャラクターに起用した「3Dスマート」シリーズを展開いたしました。またビジカジスタイルと大人のお出かけスタイルをトータルコーディネートで提案する「カフェ・ソーホー」及びレディス商品を強化するとともに、ウォームビズ商品の拡充を図りました。店舗面では、都心近郊駅前やオープンモール型SC等新たな立地への出店も含め、期初からの累計で15店舗を新規出店する一方、移転により3店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は、439店舗(前期末427店舗)となりました。

ORIHICAでは、ビジネスのカジュアル化に対応したジャケット・スラックススタイルの着回し提案を強化するとともに、最重要エリアである1都3県、名古屋、大阪に加え新たな地域の静岡、広島への出店を含め、期初からの累計で20店舗を新規出店する一方、移転による2店舗を含む3店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は、87店舗(前期末70店舗)となりました。

これらの結果、特に11月下旬からの気温の低下に伴うスーツや防寒衣料の需要拡大とリクルートの客数の増加等により既存店売上高が堅調に推移したこと及び新規出店効果で、売上高は646億76百万円(前年同期比5.9%増)、営業利益は49億72百万円(前年同期比15.7%増)となりました。

#### (アニヴェルセル・ブライダル事業)

ゲストハウスウエディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、施設毎の営業施策と優秀スタッフのノウハウ共有による料単価・一組単価アップを図るための諸施策を実施するとともに、コストの見直しを継続いたしました。

これらの結果、平成23年4月に開業した「アニヴェルセル 豊洲」の寄与により、売上高は179億65百万円(前年同期比4.0%増)と増収になったものの、新店及びリニューアルの経費が増加し、営業利益は15億73百万円(前年同期比4.7%減)となりました。

#### (カラオケルーム運営事業)

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、法人企業や団体のお客様のニーズに合わせた忘年会等各種宴会コースの提案、有名アーティストや人気キャラクターとのコラボイベントの開催や携帯会員システムの導入等により、来店促進を図りました。店舗面では、大都市駅前立地を中心に期初からの累計で6店舗を新規出店するとともに、コンセプトルーム導入等によるリニューアルを45店舗実施する一方、3店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は、129店舗(前期末126店舗)となりました。

これらの結果、引き続き近場レジャーの需要増加とファミリーや法人営業による客数の増加等により既存店が好調に推移し、売上高は106億65百万円(前年同期比10.9%増)、営業利益は9億89百万円(前年同期比12.2%増)となりました。

#### (複合カフェ運営事業)

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、アミューズメントコンテンツやハイスpekパソコン導入等のリニューアルにより店内設備や店舗環境の整備を強化するとともに、人気のオンラインゲームイベントの開催による来店促進やフードメニューの強化等を図りました。店舗面では、期初からの累計で13店舗を新規出店した結果、当第3四半期末の店舗数は165店舗(前期末152店舗)となりました。

これらの結果、新規出店とリニューアル効果による客数の増加とグランドメニュー及びシーズンメニューの好調等による客単価の上昇により既存店が好調に推移し、売上高は107億95百万円(前年同期比18.7%増)、営業利益は6億89百万円(前年同期比27.0%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ35億5百万円増加し、1,695億86百万円となりました。

流動資産は、設備投資や法人税等の支払い等により現金及び預金が12億17百万円減少した一方、新規出店等によるたな卸資産が29億35百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ22億75百万円増加いたしました。固定資産は、新規出店等による有形固定資産が14億81百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ12億29百万円増加いたしました。

(負債)

流動負債は、法人税等及び賞与の支払いにより未払法人税等が23億90百万円及び賞与引当金が6億88百万円減少した一方、季節的要因等による支払手形及び買掛金が45億68百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ5億55百万円増加いたしました。固定負債は、長期借入金が設備投資のための資金調達と約定返済等が相殺され8億18百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ9億93百万円増加いたしました。

(純資産)

純資産の部は、自己株式を5億48百万円取得した一方、四半期純利益等による利益剰余金が23億76百万円増加したこと等により、前連結会計年度と比べ19億55百万円増加しております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成23年11月9日に公表した業績予想を次のとおり修正いたしました。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	140,700	11,500	12,400	5,500	128.89
今回修正予想(B)	141,900	12,100	13,000	5,500	129.40
増減額(B - A)	1,200	600	600		
増減率(%)	0.9	5.2	4.8		
(ご参考)前年実績 (平成23年3月期)	132,561	10,952	12,057	3,575	83.78

(修正の理由)

売上高は、ファッション事業において第3四半期も気温の低下とともにスーツ、フォーマルを中心に堅調に推移し、また遅れていたリクルートマーケットも特に11月下旬から12月上旬にかけて好調に推移したことから、上記のとおり修正いたします。

営業利益及び経常利益は、ファッション事業において積極的な販促施策等により販売費及び一般管理費がやや増加する見込みとなりましたが、売上高の増加やファッション事業及びエンターテイメント事業において売上総利益率が予想よりも改善する見込みとなったこと等により、上記のとおり修正いたします。

当期純利益は、経常利益が増加する一方、当第3四半期に来年度以降の法人税率の変更等に関する法律が公布され、繰延税金資産の一部を取崩し税金費用が増加したこと等により、上記のとおりとなる見込みです。

(セグメント別予想)

セグメント別予想につきましては、特にファッション事業は3月の比重が高く実績が大きく異なる可能性があります。第3四半期連結累計期間の実績をベースに慎重に見積もった結果、次のとおりファッション事業の売上高及びセグメント利益、カラオケルーム運営事業及び複合カフェ運営事業のセグメント利益をそれぞれ上方修正いたしました。

【平成24年3月期のセグメント別予想】

	ファッション 事業	アニヴェルセル・ ブライダル事業	カラオケルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	連結
売上高(百万円)	90,200	23,320	14,000	14,400	141,900
前期比(%)	104.6	109.1	110.6	116.5	107.0
セグメント利益(百万円)	8,650	1,700	1,320	880	12,100
前期比(%)	108.3	126.4	115.9	103.9	110.5

(注) セグメント利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメントの合計と連結との差異は、連結上の調整額です。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,249	17,031
売掛金	5,243	5,003
たな卸資産	15,279	18,215
その他	5,819	6,617
貸倒引当金	9	10
流動資産合計	44,583	46,858
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	38,922	41,722
土地	31,513	31,533
その他(純額)	11,059	9,720
有形固定資産合計	81,494	82,975
無形固定資産	4,021	4,397
投資その他の資産		
差入保証金	9,126	8,934
敷金	16,524	16,898
その他	10,376	9,566
貸倒引当金	45	45
投資その他の資産合計	35,981	35,353
固定資産合計	121,497	122,727
資産合計	166,081	169,586
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,163	15,731
1年内返済予定の長期借入金	6,597	6,850
未払法人税等	2,942	552
賞与引当金	1,430	742
役員賞与引当金	113	90
その他	9,277	8,113
流動負債合計	31,524	32,080
固定負債		
長期借入金	23,575	24,393
退職給付引当金	613	698
役員退職慰労引当金	1,408	1,478
ポイント引当金	681	721
資産除去債務	3,001	3,296
負ののれん	1,556	1,240
その他	4,284	4,287
固定負債合計	35,121	36,114
負債合計	66,645	68,195

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	24,788	22,586
利益剰余金	57,987	60,363
自己株式	7,080	4,884
株主資本合計	98,977	101,348
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	198	364
その他の包括利益累計額合計	198	364
新株予約権	655	407
純資産合計	99,435	101,390
負債純資産合計	166,081	169,586

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	97,033	104,082
売上原価	52,041	56,282
売上総利益	44,991	47,800
販売費及び一般管理費	37,871	40,000
営業利益	7,120	7,799
営業外収益		
受取利息	56	54
受取配当金	69	74
不動産賃貸料	783	662
負ののれん償却額	729	729
その他	254	335
営業外収益合計	1,893	1,856
営業外費用		
支払利息	246	240
不動産賃貸費用	701	624
その他	79	290
営業外費用合計	1,028	1,155
経常利益	7,985	8,500
特別利益		
固定資産売却益	3	-
新株予約権戻入益	8	241
補助金収入	17	-
その他	1	-
特別利益合計	30	241
特別損失		
差入保証金・敷金解約損	76	18
固定資産除却損	42	67
減損損失	205	362
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,466	-
その他	70	14
特別損失合計	1,861	462
税金等調整前四半期純利益	6,153	8,278
法人税、住民税及び事業税	2,619	2,660
法人税等調整額	140	1,419
法人税等合計	2,760	4,079
少数株主損益調整前四半期純利益	3,393	4,199
四半期純利益	3,393	4,199

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,393	4,199
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	184	166
その他の包括利益合計	184	166
四半期包括利益	3,208	4,033
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,208	4,033
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・プラ イダル事業	カラオケ ルーム運 営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	61,063	17,259	9,617	9,092	97,033		97,033
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	16	2		21	21	
計	61,066	17,276	9,620	9,092	97,055	21	97,033
セグメント利益	4,297	1,649	881	543	7,372	252	7,120

(注) 1 セグメント利益の調整額 252百万円には、セグメント間取引消去2,485百万円、のれん償却額 400百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,338百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、主に店舗の閉鎖が決定し又は損益が継続してマイナスとなり回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ95百万円、58百万円及び51百万円です。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・プラ イダル事業	カラオケ ルーム運 営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	64,673	17,952	10,661	10,795	104,082		104,082
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	12	4		19	19	
計	64,676	17,965	10,665	10,795	104,102	19	104,082
セグメント利益	4,972	1,573	989	689	8,225	426	7,799

(注) 1 セグメント利益の調整額 426百万円には、セグメント間取引消去2,387百万円、のれん償却額 400百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,413百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、主に店舗の移転が決定し又は損益が継続してマイナスとなり回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ239百万円、61百万円及び37百万円です。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

自己株式の取得

当社は、平成23年11月9日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行い、当第3四半期累計期間において自己株式が476千株、548百万円増加いたしました。

自己株式の消却

当社は、平成23年11月9日開催の取締役会決議に基づき、平成23年11月21日に自己株式の消却を行い、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が2,500千株、2,745百万円、資本剰余金が2,201百万円、利益剰余金が543百万円それぞれ減少いたしました。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。